

しっかりつかまっていなさい

中央若い女性会長会第二顧問
アン・M・ディブ

天の御父は、この試しの生涯において、わたしたちを独りぼっちにされることはありませんでした。御父のみもとに帰るために必要なすべての「安全装備」を下さいました。

何年も前に注意を引かれ、それ以来ずっと忘れずに覚えている地元新聞の短い記事があります。「カナダ、オンタリオ州セントキャサリンズにある高さ 125 フィート (38 メートル) の橋で足場が崩れて 4 人が死亡、1 時間以上橋の下につかまっていた 7 人が救助された。」 (“News Capsules”, *Deseret News*, 1993 年 6 月 9 日付, A2)

この短い記事には今でも身がすくみます。この記事を読むとすぐに、セントキャサリンズに住む友人に電話しました。ガーデンシティー・スカイウェイ・ブリッジでは 1 年ほど作業員が塗装作業に当たっており、事故が起きたのは完成予定日の 2 週間前だったと、彼女は言いました。事故の後、担当者は作業員が安全装備をしていなかった理由を尋ねられました。答えは簡単でした。作業員は安全装備を持っていたものの、故意に身に付けていなかったということでした。助かった人たちは足場が崩れた後、救助隊が助けに来るまでの 1 時間余り、鋼鉄の梁の 1 インチ (2.5 センチ) ほどの縁に手をかけ、8 インチ (20 センチ) ほどの突起の上に立っていたのです。助かった作業員の一人は橋にしがみつきながら家族のことをずいぶん考えたと言いました。「今ここにこうしていられることを主に感謝しています。……ほんとうに恐ろしかったです。」 (リック・ボガツ, “Skyway Horror,” *Standard*, 1993 年 6 月 9 日付)

この出来事には多くの教訓が含まれていて、またわたしたちの人生にたとえられることも多くあります。わたしたちのほとんどはこのような生死にかかわる劇的な状況に追い込まれることはありませんが、わたしたちの多くは人生で恐ろしい時を過ごしていると感じています。

わたしたちもまるで 1 インチ (2.5 センチ) の鋼鉄の縁につかまっているかのように感じるかもしれません。この死すべき試しの生涯は簡単なものではありません。またそれはつかの間でもありません。わたしたちは祝福されてこの世に来て、死すべき肉体を得ました。この生涯は自らを証明し、選択の自由を使う機会です (アブラハム 3 : 25 参照)。天の御父の永遠の救いの計画 (ジェロム 1 : 2 ; アルマ 42 : 5 ; モーセ 6 : 62 参照) と贖い (モルモン書ヤコブ 6 : 8 ; アルマ 12 : 25 ; 42 : 11 参照) に従う選択をすることも、自分自身の道を見つけようとすることもできます。従順に神の戒めを守り、または戒めを拒んで、それにより必ず起こる結果に立ち向かうこともできます。

このため、わたしたちにも危険な仕事と義務があります。試練を避けて通ることはできないのです。寂しさ、人間関係のこじれ、裏切り、誘惑、依存症、肉体的な制限、切望していた仕事を失うなどの経験をするでしょう。義にかなった希望

や夢が思いどおりの時期に実現せず、失望感に対処できるかどうか試されることもあるでしょう。教会や家庭の召しにあっても自分の能力に疑問を持ち、失敗するかもしれないと恐れを感じることもあるでしょう。今の時代が抱える課題と危険は、社会が罪に寛容になることも含め、古今の預言者によって預言されていました。それらは、落ちたら必ず死に至る 125 フィート（38 メートル）の橋と同じように不安定で、真に恐ろしいものです。

わたしの生活は完璧なものではありません。同じようなたくさんの難題に取り組んでいます。その点でわたしたちは皆同じです。サタンの誘惑と死すべき世の困難は常に存在し、わたしたち一人一人を取り囲んでいることを知っています。鋼鉄の梁につかまるといふ危険から救助された作業員が口にした「ほんとうに恐ろしい」という言葉にわたしも同感です。

しかし、この上なく幸福な人生をくり、まったく試練を経験しない人が聖文にはほとんど登場しないということに気づくことは大切です。わたしたちは、信仰と粘り強さ、個人の義をもって困難を克服することによって、学び成長します。トーマス・S・モンソン大管長が天の御父とわたしたちに寄せる限りない信頼により、わたしは強められてきました。大管長は次のように言っています。「皆さんはこの業において御父の祝福にあずかる権利があることを覚えていてください。御父は、導きなしに、運に任せて独りで歩んで行かせるために、皆さんをその特権ある地位に召されたわけではありません。それどころか、御父は皆さんの持つ能力を御存じであり、皆さんの献身をよく御存じです。また、皆さんが不十分だと感じている部分を強さだと認識できるように変えてくださいます。御父はこのように約束されています。『わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。』」（「テンサイと人の価値」『リアホナ』2009年7月号、3-4）

天の御父は、この試しの生涯において、わたしたちを独りぼっちにされることはありませんでした。御父のみもとに帰るために必要なすべての「安全装備」を下さいました。わたしたちを導くために、個人の祈り、聖文、生ける預言者、そして、聖霊を与えられました。時にはこの装備を使うことが面倒で、格好悪くて、時代遅れに思えるかもしれませんが。適切に使うには、勤勉さと従順と忍耐が必要です。でもわたし個人としては使うことを選択します。わたしたちは皆使うことを選ばなければなりません。

聖文からはもう一つの重要な安全装備である「鉄の棒」について学ぶことができます。救い主イエス・キリストの弟子は、この棒につかまって永遠の命へと続く道を安全に見つけられるよう勧告を受けています。わたしが話しているのは、モルモン書に書かれている命の木に関するリーハイの示現のことです。

モルモン書の預言者リーハイと息子のニーファイはそれぞれが受けた神の啓示を通して、人の試しの生涯とそれに伴う危険を見ました。リーハイは言いました。「そこで、暗黒の霧が起こった。まことに、非常に深い暗黒の霧であったため、道を歩き始めていた人々は道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまった。」

(1 ニーフアイ 8 : 23) しかし、「〔彼は〕このほかに大勢の人が押し進んで来るのを見た。この人々は進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、しっかり鉄の棒につかまりながら道を押し進み、ついにやって来ると、ひれ伏して木の実を食べた。」木とはつまり、命の木のことです (1 ニーフアイ 8 : 30)。

リーハイの示現からわたしたちは、それぞれのまっすぐで狭い道に沿って延びる手すり、つまりこの鉄の棒をつかみ、天の御父とともに住む永遠の命という最終目的地に着くまで、しっかり握っていなければならないことが分かります。ニーフアイは、鉄の棒にしっかりつかまる者は「決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない」と約束しています (1 ニーフアイ 15 : 24)。

この靈感あふれる示現をもう一度全部読むことを皆さんに勧めます。研究し、深く考え、日々の生活に当てはめてください。鉄の棒をしっかりと握り、決して放してはいけません。

わたしが 10 代のころ預言者だったハロルド・B・リー大管長は教えています。「人類を苦しめる問題に男性、女性、青少年、ヤングアダルトが答えを必死に探すこの騒がしい失望の時代にあって、最も必要なものが何か一つあるとすれば、それは『鉄の棒』です。鉄の棒は『徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあること』の完全な喪失と破滅へ通ずる見知らぬ曲がりくねった道が多くある中で、永遠の命へ続くまっすぐな道に沿って延びる確かな道案内です。」 (“The Iron Rod”, Ensign, 1971 年 6 月号, 7)

これはわたしが 10 代のころ、意味のある言葉でしたが、恐らく今はもっと意味があるでしょう。紀元前 600 年であろうと、1971 年あるいは 2009 年であろうと、預言者の言葉は常に警告し、教え、真理を奨励しています。預言者、聖見者、啓示者としてわたしたちが支持する人たちの靈感された言葉にぜひ耳を傾け、信じ、従ってください。

鉄の棒につかまることがいつも簡単であるとは限りません。仲間の圧力により、また自分を過信して、帰り道は後で探せると考えて手を放してしまうかもしれません。そのときわたしたちは、安全装備を置き去りにしているのです。リーハイの示現では手を放した人が多くいました。ニーフアイは言っています。「多くの人が、見知らぬ道に迷って父の視界から消えてしまった。」 (1 ニーフアイ 8 : 32) 人生の大変な時期にわたしたちも「見知らぬ道に迷〔う〕」ことがあるでしょう。でも安心してください。帰り道を見つけることは必ずできます。救い主イエス・キリストの贖いの犠牲によって可能となった悔い改めを通して、もう一度鉄の棒にしっかりつかまり、再び天の御父の愛ある導きを感じることが出来ます。救い主はわたしたちをいつまでも招いておられます。悔い改めて、つかまって、放さないでください。

わたしもニーフアイのように、「神の言葉を心に留めて、何事においても常に神の戒めを守ることを覚えるよう」皆さんに強く勧告します (1 ニーフアイ 15 : 25)。神が用意してくださった安全装備を使ってください。しっかりつかまり、皆さんの勤勉さを天の御父が祝福して下さることを信じてください。

回復された福音が真実であることを知っています。わたしたちが生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長によって導かれていることを知っています。彼の娘であることは、わたしにとって大きな特権であり祝福です。わたしは両親を心から愛しています。

ある晩、少々気落ちしてわたしは言いました。「お父さん、教会員として受ける祝福も神殿の約束された祝福もほんとうにすばらしいわ。ただ祝福に手を伸ばして、受けることを選ばね。」何のためらいもなく父は答えました。「アン、それがすべてだよ。」

わたしたちがイエス・キリストの福音の永遠の真理につかまっていることができるよう心から祈ります。それが文字どおりすべてだからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。